

～第2 バチカン公会議が目指したこと～
(1)

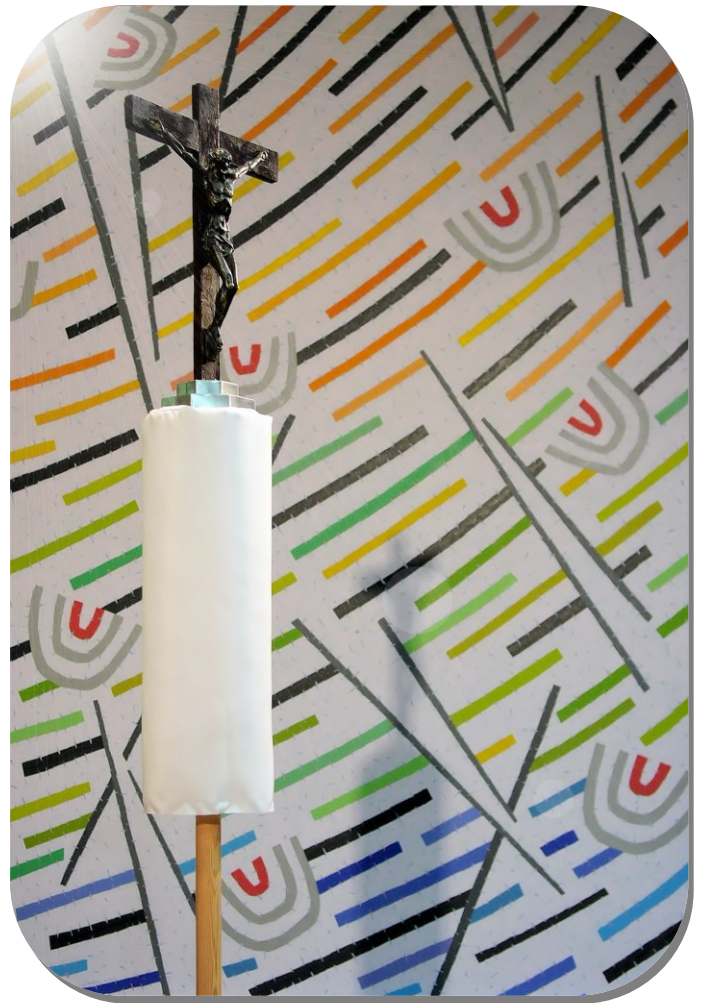
* 50 年前にローマのバチカンで、ある会議が開催されました。「第2 バチカン公会議」です。— 今、多くのカトリック信者の記憶には、何が残っているのでしょうか。典礼は、ラテン語から自国語に変わった、その程度の記憶かもしれません。—



* 第2 バチカン公会議は故教皇ヨハネ 23 世のもとに、1962 年 10 月 11 日に始まり～ 2300 人の司教が集まり～4 年後の 1965 年 12 月 8 日、故パウロ 6 世のもとで閉会された会議です。

発表されたものは「憲章」4 件、『教令』9 件、「宣言」3 件。日本語の訳では（ラテン語で 100 万字）400 ページ近くにもものぼります。もちろん“文章”が多いからいい、ということではありません。大切な

は、その“文章”を生み出した新しい命の息吹である聖霊の導きと働きに気づき、そしてそれに従うことです。



1. 公会議の目的

故教皇ヨハネ 23 世の言葉を借りて言えば、会議の目的は教会の AGGIORNAMENTO（アジオルナメント）でした。つまり、イエスと初代教会に倣って、公会議は聖霊に照らされ導かれて、回心と改革を行うことによって現代に相應しく生きる教会を目指すことを呼びかけました。

- (1) 命の泉であるイエス・キリストを中心にして生きて行きましょう。
- (2) 複雑な歴史が生んだ考え方、習慣、あり方を改めましょう。
- (3) それは現代世界と社会の中で、もっと忠実にイエスと福音を伝え、証しするために。変わり得ることと変わり得ないこと、どのように信じ、生きるべきか、それらを整理し、確認するように公会議は努めました。

上記の三つのことに基づいて、公会議は：

- ① 信仰の中のイエスの位置（聖書の大切さ）[神の啓示に関する教義憲章]
- ② 教会の真の伝統（伝統と習慣の違い）
- ③ 聖霊の位置と働き（時のしるし）について新たに考えることを呼びかけました。



2. 教会の態度

—「すべての人にあてた公会議の教父たちのメッセージ」(1962年10月20日)を参照—

教会の態度は「謙虚」であることが望まれました。過去の過ちを認めて教会は反省し、すべての人に貢献することを新たに決心しました。上から下へという目線を改め、敵対と警戒の態度をやめ、愛と信頼に基づいて現代のすべての人と穏やかに関わり合うように心がけました。その態度の背景にイエスご自身とイエスのことばに対する新たな認識が浮き彫りになります。「私の教会」(マタイ 16章18)、「仕えること」「奉仕に生きること」(マタイ 20章25～28、23章1～11、ヨハネ 13章12～16) など—。

～次号へ続く～